

秋の深まりとともに、早くも商店街では、クリスマスのイルミネーションが輝き始めました。現在会員登録数 1,844 人さま。ご愛読ありがとうございます。次号は 12 月 22 日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 63

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● 第15回国際グリム賞 贈呈式・記念講演会 参加者募集

講 師：第15回国際グリム賞受賞者

ペリー・ノーデルマン 博士（カナダ・ウィニペグ大学名誉教授）

演 題：「わが著『絵本論』を超えて—絵本と絵本研究の過去・現在・未来」

通 訳：松下宏子さん（関西大学ほか非常勤講師）

日 時：平成27年11月21日（土）午後1時30分～4時30分

会 場：大阪国際交流センター（大阪市天王寺区上本町8）

参加費：無 料（当日参加可）

主 催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 ／

一般財団法人 金蘭会 ／ 大阪府立大手前高等学校同窓会 金蘭会

詳細は→ [http://www.iiclo.or.jp/07\\_com-con/01\\_grimm/index.html#15shiki](http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/01_grimm/index.html#15shiki)

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

\*\*\*\*\*

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

\*\*\*\*\*

『トンネルの森 1945』 角野栄子著 KADOKAWA 2015年7月

対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：昭和15年、5歳で母親を亡くしたイコは、祖母と住むが、その間に父は再婚、出征、病気による帰宅を経て、工場勤めとなる。東京の空襲が激しくなって疎開が決まり、四年生になったイコはママ母の光子さん、弟のヒロシと田舎の森の中にある小屋に住み始める。イコは新しい家族と新しい学校生活を送りながら、東京にいる祖母や父を心配する。

T：最後のシーンが圧巻でした。

Y：それは、タイトル『トンネルの森 1945』でも象徴的に表現されています。そして、主人公のイコちゃんにとってトンネルはさまざまな意味を持つものとして描かれています。古いお墓があり、脱走兵の影が見えたり、ハーモニカを吹く音が聞こえたりする場。トンネルの中には死の気配が漂っています。

T：けれど、イコちゃんは、死を退けようとするのではなく、トンネルの前で名乗りを上げ、歌を歌って死と寄り添って生きていこうとする。イコちゃん自身が死に近いところで生きていることが実感できます。

Y：それは、空襲、祖母の死や、父の病気やけが、級友の母の死、そしてイコちゃんの家族が食べ物に困窮している様子と重なります。作品の中で、祖母はタカさん、父はセイゾウさん、ママ母は光子さんと表記されている点もイコが大人たちを客観的に見ようとしている視点が感じられておもしろかったです。

T：光子さんだけが漢字。疎開先でのママ母とのお互い遠慮しながらも、そのことにもどかしさを感じている様子がリアルでした。そして、級友を含めて名前をカタカナ表記にすることで、イコと登場人物との距離が読者に見えるように描かれていると思いました。

Y：角野さんの子ども時代の記憶の鮮明さを改めて感じました。例えば、大人たちが口にする「こんなご時世だからね」という言葉がその時々や語る人によって微妙な意味を伝えようとしていることが作品から伝わってきて、当時の空気を感じることができました。

T：この作品の主人公のイコちゃんは栄子さんのことで、角野さんの実体験が下敷きになっていると思われませんが、具体的描写が見事です。『わたしが子どものころ戦争があった 児童文学者が語る現代史』（野上暁編 理論社 2015年8月）には、角野さんの戦争体験が書かれています。「変化っ気がつかないうちにやってくるのです。気がついたら、とんでもないことになっていた、」と書かれているように、戦争時代を「ふつう」に生きてきたことが描かれることによって、「トンネル」の意味が深く感じられる作品になったと思います。

\* 本コラムは、Yasuko が毎回、児童文学者をゲストに迎え、新しい本について語ります。今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

\*\*\*\*\*

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

\*\*\*\*\*

第3回「なめとこ山の熊」（その2）

〈熊の胆〉をめぐる

前回に引き続き、「なめとこ山の熊」を取り上げ、〈熊の胆（い）〉に注目してみます。

〈熊の胆〉とは、熊の胆嚢をよく乾燥させたもので、消化器系全般に効果のある生薬として知られています。その万能薬と熊の皮について、賢治は小十郎に〈町へ持って行ってひどく高く売れると云うのではないし〉と言わせています。

前回は触れたように、〈熊の胆〉は非常に換金性が高いものでした。当初、本作の題名が「なめとこ山の熊の胆」であったことを考慮すると、〈熊の胆〉が一つの重要なモチーフであったことは否定できません。

しかし、作者は題名から〈の胆〉を削除し、また荒物屋では小十郎が熊の皮を買い叩かれるシーンを描くものの、一方で名高い名物であり、猟師にとって重要な商品であったはずの〈熊の胆〉を売るシーンは書きませんでした。作品では、こうした〈熊の胆〉の特性が次第に抑え気味になっていったように感じます。それはなぜなのか。

一つには、町の搾取の問題を書きたかったからだと思いますが、一方で、青塚宏次氏は、書き進めるうちに〈胃〉という主題に傾斜していったからだと指摘しています（「宮沢賢治と円環序説—『なめとこ山の熊』と『銀河鉄道の夜』を中心に」1997年）。

氏は、ある年の春早く、小十郎が母子の熊と遭遇した場面において、食物をつかさどる宿星〈胃〉が彼らを照らしている場面に注目します。さらに、小十郎が〈お前の毛皮と、“胆”のほかにはなんにもいらぬ〉と言っているのに対し、熊が〈毛皮も“胃袋”もやってしまうから〉と答えるシーンにも焦点をあて、熊や小十郎を包み込んでいる重要なテーマが食物の確保であり、〈胃袋〉であると論じていきます。

すなわち、搾取の問題を書くうちに〈胃〉が大きなテーマとして浮上し、それに伴って〈胆〉が抑制されるに至ったという構図です。本作は、賢治童話のなかでは珍しく手入れもあまりなされず、一気に書かれたようですが、ここでの題名変更には、創作におけるテーマ模索のダイナミックな瞬間がみられるようです。（ペ吉）

（本文は、新潮文庫『注文の多い料理店』を使用、引用中の“”は引用者に拠ります。）

\*\*\*\*\*

### 《3》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 63

\*\*\*\*\*

#### その9 おはなしを語る（4）語るポイント2

おはなしを聞く時、語りはじめで気が削がれてしまうことがあります。それには、次の3つの原因が考えられます。

まずは、語り手の登場の仕方です。落ち着かず、そわそわしていると、聞き手も気が散ります。座ったとたんに語り始めると、語り手と聞き手のコミュ

ニケーションが成立しないまま始まるので、おはなしの世界に入るのが難しくなります。とって、子どもの前に座ってからおはなしを始めるまでに長々と話すと、おはなしを聞く雰囲気は壊れてしまいます。語り手は落ち着いて登場し、目や短い言葉で聞き手を把握してコミュニケーションを成立させることができれば、自然に語り始めることが可能です。

次に、タイトルです。「ゆきんこ」というタイトルを、氷で透き通ったような結末を予測させるややはかないような、老夫婦が愛を感じるようなイメージで言う場合と、「ゆきんこ」という音のみを出す場合では、それだけで、聞き手のおはなしの世界への入り方が異なります。タイトルを丁寧に語ることで、語り手がこれから語るお話を大切に思って聞き手に伝えようとしている思いが伝わります。声を張り上げたり、ひそめたりするのではなく、おはなしのイメージをタイトルに込めて伝えることが重要です。

そして、冒頭の語りです。「むかしむかし あるところに おじいさんと おばあさんが いました」などの語りはじめは、つい、決まり文句のように言ってしまうがちですが、最初の一文中に、おはなしの重要な設定である「むかしむかし」という時、「あるところ」という場所、「おじいさんと おばあさん」という主人公が語られています。つまり、この一文で語り手は、聞き手を現実世界とは異なるおはなしの世界へと連れていくこととなります。そこで、聞き手の気を削がないように、丁寧に、そして聞き手を誘うように語ることが重要です。

\* 次号は「その9 おはなしを語る(4) 語るポイント3」の予定です。  
質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思えます。(Y)

\*\*\*\*\*

《4》 行って来ました!

\*\*\*\*\*

京都国際マンガミュージアムで2016年2月7日まで開催されている「江戸からたどる大マンガ史展～鳥羽絵・ポンチ・漫画～」に行ってきました。

江戸時代の戯画・戯画本約150点や明治時代の戯画錦絵30点、明治・大正・昭和初期の漫画雑誌など、京都国際マンガミュージアム所蔵の貴重なコレクションが展示されてマンガの歴史がわかるようになっています。

前半は江戸中期以降の戯画や錦絵の展示です。人の顔が黒丸や線で描かれた鳥羽絵、震災で儲けた職人が鯰をあがめている鯰絵、無理な体勢でユニークな影を作っている影絵、歌舞伎役者の死を大勢の女の人やメス猫までが悲しんでいる死絵、ほかにも文字絵、枕絵、寄せ絵など、いろいろな種類の絵が解説とともに展示されています。くずし字で書かれている文字が読めなくても思わず笑ってしまいます。吹き出しの中に人物の気持ちが書かれている絵や、暗闇を背景に光の線が描かれることで動きや速さを感じられる絵、コマ割りになっている絵、遠近法が取り入れられた絵など、現在のマンガの技法とつながっていることがよくわかりました。

後半は明治から昭和初期までの漫画雑誌などが展示されています。外国からの影響を受けた風刺画の「ジャパン・パンチ」や、宮武外骨の「滑稽新聞」、

「大阪パック」など、ほとんどの作品は表紙しか見られず、中身が気になりました。展示の最後の方には「のらくろ」や「フクちゃん」が出てきて、江戸時代からの延長線上にこれらの作品があることに感動を覚えました。

1月4日からは展示が入れ替えられるそうです。土日祝に開催される「めざせマンガ博士！江戸戯画から学ぶマンガのひみつ」というワークショップもおもしろそうで、もう一度見に行きたいと思いました。(K)

---

### 【3】全国のイベント紹介

---

#### ● さえぐさひろこさん&さとうあきらさん講演会

新刊絵本『どうぶつうんどうかい』出版記念

講師：さえぐさひろこ（童話作家） さとうあきら（動物・写真家）

場所：堺市立南図書館 ホール（堺市南区茶山台）

日時：12月19日（土）午後1時30分～3時30分

定員：60人（申込先着順）

参加費：無料

主催：キッズパル（南図書館読み聞かせボランティア）

共催：お話と楽しく出会う会「あったとさ」

#### ● 大阪府立中央図書館 国際児童文学館 展示とイベント

「酒井七馬とその時代」

関西マンガ界の伝説とされ、マンガ家・アニメーター・街頭紙芝居作家と様々な顔を持つ酒井七馬。その生誕110年を記念し、資料展示と街頭紙芝居実演・講演会を開催します。

◇ 資料展示

期間：開催中～12月20日（日） 休館日あり

会場：大阪府立中央図書館 1階（東大阪市荒本）

共催：京都国際マンガミュージアム／京都精華大学国際マンガ研究センター

協力：中野晴行・渡辺泰

◇ 街頭紙芝居実演

演目：『鞍馬小天狗』ほか

出演：塩崎おとぎ紙芝居博物館 紙芝居師

日時：平成27年12月12日（土）午後1時～1時45分

会場：大阪府立中央図書館 2階多目的室

参加費：無料 申込み：不要

◇ 講演会

演題：レジェンド 酒井七馬と昭和の大阪まんが

講師：中野晴行（京都精華大学 客員教授）

日時：平成27年12月12日（土）午後2時～4時

会場：大阪府立中央図書館 2階大会議室

参加費：無料 申込み：事前申込要

共催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

協力：一般社団法人 塩崎おとぎ紙芝居博物館

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

---

#### 【4】プレゼント

---

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『トンネルの森 1945』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガNO.63プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ(5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は12月10日(木)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

#### 編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

---

背広に要るのも今シーズン限りかなと思いつつ、最近は驚くほど安くあるし、冬用を求めることにした。お洒落というより、自分のパターンを決めておけば楽という理由で、随分前からダブルの2つボタンで通してきた。

ところが、ない。大手チェーン店でもダブルのスーツは1着も置いていないのだ。オーダー専門店でも2つボタンは型紙がないと断られ、挙句…。

時の流れと、「こだわりはお金なり」を思い知るのだった…。(A)

---

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
- 配信の登録・解除・変更は、  
[http://www.iiclo.or.jp/m1\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html) パソコンからどうぞ
- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

---

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>  
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内  
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp

---